

Oracle® Developer Studio 12.5: 分散 Readme

2016 年 6 月

このドキュメントには、Oracle Developer Studio 12.5 に含まれる再配布可能なファイルをリストします。

概要

Oracle Developer Studio (以下「プログラム」) の Oracle Technology Network ライセンス契約 (以下「契約」) を遵守するかぎり、契約に記載された条件や制限ならびに後述のすべての追加制限の下で、次の各ファイルはそれぞれ再頒布可能であり、開発した任意のプログラムとともに配布することができます。

注記 - GNU GCC 5.1.0 C++11 実行時ライブラリ - `libstdc++.so.6.0.21`、`libgcc_s.so.1` が再配布可能なライブラリのリストに含まれました。これらのライブラリは、『[License Information User Manual Oracle Developer Studio 12.5 Last Updated: JUNE 2016](#)』で説明されているように、「GCC RUNTIME LIBRARY EXCEPTION」に基づいてライセンスされています。

1. SPARC および x86 プラットフォームの Oracle Solaris 用のライブラリ

- C ライブラリ
 - `libstatomic.so.1`
- C++ ライブラリ
 - `libstlport.so.1`
 - `libstdc++.so.6.0.21`
 - `libgcc_s.so.1`
- Fortran ライブラリ
 - `libfai.so.3` (SPARC のみ)
 - `libfai2.so.3` (SPARC のみ)
 - `libfmaxlai.so.1` (SPARC のみ)
 - `libfmaxvai.so.1` (SPARC のみ)
 - `libfminlai.so.1` (SPARC のみ)
 - `libfminvai.so.1` (SPARC のみ)
 - `libfprodai.so.1` (SPARC のみ)
 - `libfsumai.so.1` (SPARC のみ)
- 数学ライブラリ
 - `libsunmath.so.1`
- ガベージコレクション
 - `libgc.so.1`
- コードアナライザ
 - `libadipugin.so` (SPARC only)

2. Linux 用のライブラリ

- C ライブラリ

- libstatomic.so
- C++ ライブラリ
 - libCrun.so.1
 - libCrunG3.so.1
 - libCstd.so.1
 - libdemangle.so.1
 - libiostream.so.1
 - libstlport.so.1
 - libstdc++.so.6.0.21
 - libgcc_s.so.1
- Fortran ライブラリ
 - libfai.so.1
 - libfsu.so.1
 - libfui.so.1
- マイクロタスキングライブラリ
 - libmtsk.so.1
 - libmtsk_db.so.1
 - libmtsk_crt.so.1
- 科学ライブラリ
 - libsunperf.so.3.2
- プロファイリングライブラリ
 - libtdf.so.1
 - libxprof.so.1

3. オブジェクトファイル

- crt1.o
- crti.o
- crtn.o
- CCgrti.o
- CCgrtn.o
- CCrti.o
- CCrtn.o
- gcrt1.o
- mcrt1.o
- mtsk_crt.o (Oracle Solaris のみ)
- pagesize.o (Oracle Solaris のみ)
- prof_func.o
- values-xa.o
- values-xc.o
- values-xi.o
- values-xpg4.o
- values-xs.o

- values-xt.o
- xprof_fini.o
- misalign.o (SPARC のみ)
- wordalignI8.o (SPARC のみ)

4. リンク時の実行可能ファイル

次の実行可能ファイルは、顧客がプログラムにリンクするオブジェクトファイルやライブラリとともに再配布できます。

- SPARC プラットフォームの Oracle Solaris 用の postopt

postopt はリンク時のオプティマイザであり、プロファイル情報 (-xprofile=use) を使用することで、.o ファイルやアーカイブライブラリを最適化してバイナリ実行可能ファイルまたは共有 (動的) ライブラリを生成します。

postopt 実行可能ファイルを製品と一緒に出荷する必要があるのは、次のすべての条件を満たす場合だけです。

- 顧客によってプログラムにリンクされるライブラリおよび .o ファイルを提供し、かつ
- 顧客が Oracle Developer Studio を所有していることが期待されず、かつ
- 通常は、cc|CC|f90 を使用しないで直接 ld を使用してリンクを行うようなスクリプトまたはメイクファイルを提供し、かつ
- postopt のリンク時最適化を有効にすると顧客の実行時パフォーマンスが改善することが期待でき、かつ
- ライブラリおよび .o ファイルの一部または全部を -xlinkopt オプション付きでコンパイル済みであり、かつ
- コードが複数のセクションに断片化される原因となるオプション -xF を使用してコンパイルしなかった。

顧客サイトでリンクを実行する ISV は通常、Oracle Solaris の ld を使用する次のようなスクリプトまたはメイクファイルを提供します。

```
% /usr/ccs/bin/ld /isv_install_area/crti.o ...
<linker_options_.o_files_and_libraries> ... /isv_install_area/crtn.o
```

postopt を使用しているとき、ユーザーは、このコマンドを変更して次のように ld を postopt で置き換える必要があります。

```
% /isv_install_area/postopt /isv_install_area/crti.o ...
<linker_options_.o_files_and_libraries> ... /isv_install_area/crtn.o
```

postopt は、自身の最適化が完了すると自動的に、Oracle Solaris の ld を呼び出して最終的なバイナリ実行可能ファイルまたは共有ライブラリを作成します。

Oracle Developer Studio 12.5: 分散 Readme

Part No: E71988

Copyright © 2011, 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ, AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

Part No: E71988

Copyright © 2011, 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.